

平成27年に記念の年を迎える  
主なゆかりの文化人

- 江戸川乱歩 作家 [1894-1965] 没後50年
- 円地文子 作家 [1905-1986] 生誕110年
- 大町桂月 詩人・随筆家 [1869-1925] 没後90年
- 川口松太郎 作家 [1899-1985] 没後30年
- 北原白秋 詩人・作家 [1885-1942] 生誕130年
- 木下杢太郎 医学者・詩人 [1885-1945] 生誕130年  
没後70年
- 坂口安吾 作家 [1906-1955] 没後60年
- 田口卯吉 経済学者 [1855-1905] 生誕160年  
没後110年
- 谷崎潤一郎 作家 [1886-1965] 没後50年
- 坪内逍遙 作家・評論家 [1859-1935] 没後80年
- 寺田寅彦 物理学者・随筆家 [1878-1935] 没後80年
- 中勘助 作家・詩人 [1885-1965] 生誕130年  
没後50年
- 中里介山 作家 [1885-1944] 生誕130年
- 野上弥生子 作家 [1885-1985] 生誕130年  
没後30年
- 野口雨情 詩人・作詞家 [1882-1945] 没後70年
- 花柳章太郎 俳優 [1894-1965] 没後50年
- 前田青邨 日本画家 [1885-1977] 生誕130年
- 棟方志功 版画家 [1903-1975] 没後40年
- 柳田國男 民俗学者 [1875-1962] 生誕140年
- 山田耕筰 作曲家 [1886-1965] 没後50年
- 若山牧水 歌人 [1885-1928] 生誕130年

森鷗外をはじめとする、さまざまな分野の文化人が足跡を残した地・文京。

その代表的な文化人を顕彰し、文京区の多様な文化的資源を広く発信します。

今年度は、生誕・没後の記念の年を迎えた木下杢太郎、坂口安吾、谷崎潤一郎、寺田寅彦らについて、さまざまな事業を通じて紹介いたします。

また歴史的建造物であり、樋口一葉にもゆかりある旧伊勢屋質店が保存され、公開事業が行われます。

文の京ゆかりの文化人顕彰事業 関連事業案内

森鷗外記念館 企画案内

特別展「ドクトル・リントロウ 医学者としての鷗外」

会 期：平成27年10月3日(土)～12月6日(日) 10時～18時(最終入館17時30分)  
※11月6日(金)～8日(日)は20時まで開館(最終入館19時30分)

休 館 日：10/27、11/24

観 覧 料：500円(20人以上の団体400円)  
中学生以下・身体障害者手帳等提示の方と介護者1人無料

コレクション企画「奈良・京都の鷗外 ―今日オクラガアキマシタ」

会 期：平成27年12月11日(金)～平成28年2月7日(日) 10時～18時  
(最終入館17時30分)

休 館 日：12/29～1/3、1/26

観 覧 料：300円(20人以上の団体240円)  
中学生以下・身体障害者手帳等提示の方と介護者1人無料  
※1月19日(火・鷗外の誕生日)は無料公開日

問 合 せ：文京区立森鷗外記念館 TEL 03-3824-5511  
〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4

旧伊勢屋質店 一般公開 11月8日より公開開始

本郷・菊坂にある旧伊勢屋質店は、明治期の蔵・見世・座敷からなる歴史的建造物で、生活に困窮した樋口一葉が通ったとされる、ゆかりの建物です。所有者である跡見学園女子大学との協働により、建物内部を一般公開します。



公 開 日：①土曜日・日曜日(年末年始、大学行事日等を除く)  
②11月23日(月・祝) 一葉忌

休 館 日：12/13、1/2、1/3、1/16、1/17、1/24、3/19(以降未定)  
※詳細は跡見学園女子大学のホームページをご覧ください。

公開時間：①②とも10時30分～16時(最終入場は15時30分)

場 所：旧伊勢屋質店(本郷5-9-4) 入 場 料：無料

※混雑時は入場までお待ちいただく場合があります。予約は受け付けていません。  
お手洗い、駐車場、駐輪場はございません。

問 合 せ：跡見学園女子大学 文京キャンパス事務室 TEL 03-3941-7420  
<http://www.atomi.ac.jp/univ/>

その他関連事業(終了分)

森鷗外記念館 コレクション企画「鷗外を継ぐ―木下杢太郎―」

パート1:杢太郎がたどりついた鷗外/パート2:杢太郎という生き方

会 期：平成27年7月17日(金)～9月27日(日)

会 場：文京区立森鷗外記念館

朗読コンテスト(主管：跡見学園女子大学)

日 時：10月18日(日) 本選

会 場：跡見学園女子大学プロッサムホール

課題作：森 鷗外「舞姫」「雁」「山椒大夫」「最後の一句」

樋口一葉「たけくらべ」「十三夜」「樋口一葉日記」

応募者：169人 本選出場者：16人

平成27年度 文の京ゆかりの文化人顕彰事業

平成27年(2015)10月31日発行

編集・発行：文京区アカデミー推進部アカデミー推進課  
文化資源担当室(文京ふるさと歴史館)  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-9-29 TEL 03-3818-7221  
<http://www.city.bunkyo.lg.jp/rekishikan/>

印刷物番号 J0415027

文京ふるさと歴史館 関連事業案内・参加者募集

特別展「復興への想い―生きよ!もっと強く―」

戦災・震災を復興という視点で捉え、展示します。その時代を生きたゆかりの文化人・寺田寅彦、坂口安吾、永井荷風らの事績も紹介します。

会 期：平成27年10月31日(土)～12月13日(日) 10時～17時

会 場：文京ふるさと歴史館 地下1階企画展示室

休館日：月曜(ただし11/23は開館、11/24は休館)

入館料：300円(20人以上の団体210円) 65歳以上・中学生以下・友の会会員は無料、身体障害者手帳等提示の方と介護者1人無料  
※11月3日(火・祝)は無料公開日

史跡めぐり「文人のまち本郷と学者町西片を訪ねて」

本郷・西片界隈にゆかりのある文化人の旧居などを訪ねます。

コース：ふるさと歴史館→菊富士ホテル跡→求道会館(内部見学)→  
田口卯吉邸(玄関まで)→旧伊勢屋質店(自由見学)

日 時：平成27年12月6日(日) 13時～16時(雨天決行)

ガイド：ふるさと歴史館友の会「文京まち案内」ボランティアガイド

対 象：高校生以上 定員：50人(抽選) 参加費：40円(保険料)

申 込：往復はがき(1枚2人まで)に「12月6日史跡めぐり」・全員の住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号と返信用にもあて先を明記し、文京ふるさと歴史館まで。締切は11月24日(火) 必着。

歴史講座「谷崎潤一郎―その生涯と文京とのゆかり―」

谷崎潤一郎の生涯や文学について、文京とのゆかりも絡めながらお話いただきます。講師は谷崎研究の第一人者で、没後50年にあたり新発見された書籍の研究や、全集の編集にも携わる千葉俊二先生です。

日 時：平成28年3月6日(日) 14時～16時

講 師：千葉俊二氏(早稲田大学教授)

会 場：文京区男女平等センター 研修室A(本郷4-8-3)

対 象：高校生以上 定員：100人(抽選)

参加費：200円(講座当日の歴史館入館料無料)

申 込：往復はがき(1枚2人まで)に「3月6日歴史講座」・全員の住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号と返信用にもあて先を明記し、文京ふるさと歴史館まで。締切は2月18日(木) 必着。

文学コーナー・ミニ展示「谷崎潤一郎」

平成27年度、新たに寄贈された谷崎潤一郎の書籍(初公開)のほか、写真等、館蔵の関連資料を展示します。

会 期：平成28年2月13日(土)～3月21日(月・祝) 10時～17時

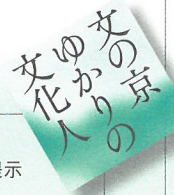
会 場：文京ふるさと歴史館 2階常設展示室・文学コーナー

休館日：月曜

入館料：100円(20人以上の団体70円) 65歳以上・中学生以下・友の会会員は無料、身体障害者手帳等提示の方と介護者1人無料

※同時開催・収蔵品展「はかる」(地下1階企画展示室)もご覧いただけます。

問合せ：文京ふるさと歴史館 TEL 03-3818-7221  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-9-29



※ふるさと歴史館・森鷗外記念館 相互割引のお知らせ  
歴史館入館券、友の会会員証、歴史館パンフレット(押印あり)提示  
→鷗外記念館観覧料が2割引  
鷗外記念館入館券、鷗外バス提示→歴史館の入館料が団体料金適用



没後50年

# 谷崎潤一郎

[たにざき・じゅんいちろう]

(1886～1965)  
小説家・戯曲家



芦屋市谷崎潤一郎記念館提供

日本橋区蛸殻町（現・中央区）生まれ。東京府立第一中学校（現・都立日比谷高校）、第一高等学校英法科を経て、東京帝国大学文科大学国文学科（退学）。和辻哲郎らと第二次『新思潮』を創刊、「刺青」「麒麟」などを発表し、永井荷風に激賞され文壇へ登場。関東大震災後、関西に移住。耽美的、反自然主義の作風で知られ、代表作に『痴人の愛』『蓼喰ふ虫』『吉野葛』『春琴抄』『細雪』『鍵』などがある。文化勲章受章。平成28年は生誕130年の記念の年となる。

■芦屋市谷崎潤一郎記念館  
兵庫県芦屋市伊勢町12-15 TEL 0797-23-5852

谷崎潤一郎 文京とのゆかり

年	年齢	事項
明治38年 9月	19	第一高等学校英法科に入学
明治40年 2月	20	田中徹、岸巖、行森昇、杉田直樹らと一高の文芸部委員となる
明治40年 9月	21	一高の雑察一番室に入る
明治41年 春	21	一高の北寮八番室に移る
明治41年 7月	21	第一高等学校英法科卒業
明治41年 9月	22	東京帝国大学国文科に入学
明治44年 7月	24	大学を授業料未納のため退学処分
大正5年 6月	29	小石川区原町15番地（現・白山5）に転居
大正5年 12月	30	小石川区原町13番地（現・千石1または白山5）に転居
大正8年 3月	32	本郷区駒込曙町10番地（現・本駒込2）に転居 近くの駒込神明町（現・本駒込3）に住む佐藤春夫との親密な交際が始まる
大正12年 9月	37	関東大震災後、妻子は本郷区駒込西片町（現・西片1）の今東光宅へ避難
昭和35年 10月	74	狭心症のため東京大学附属病院上田内科に入院、12月退院
昭和38年 10月	77	この頃、文京区関口台町（現・関口2）目白台アパートに仮住まい
昭和40年 1月	78	東京医科歯科大学附属病院に入院し手術を受ける 3月退院



一高時代の谷崎潤一郎

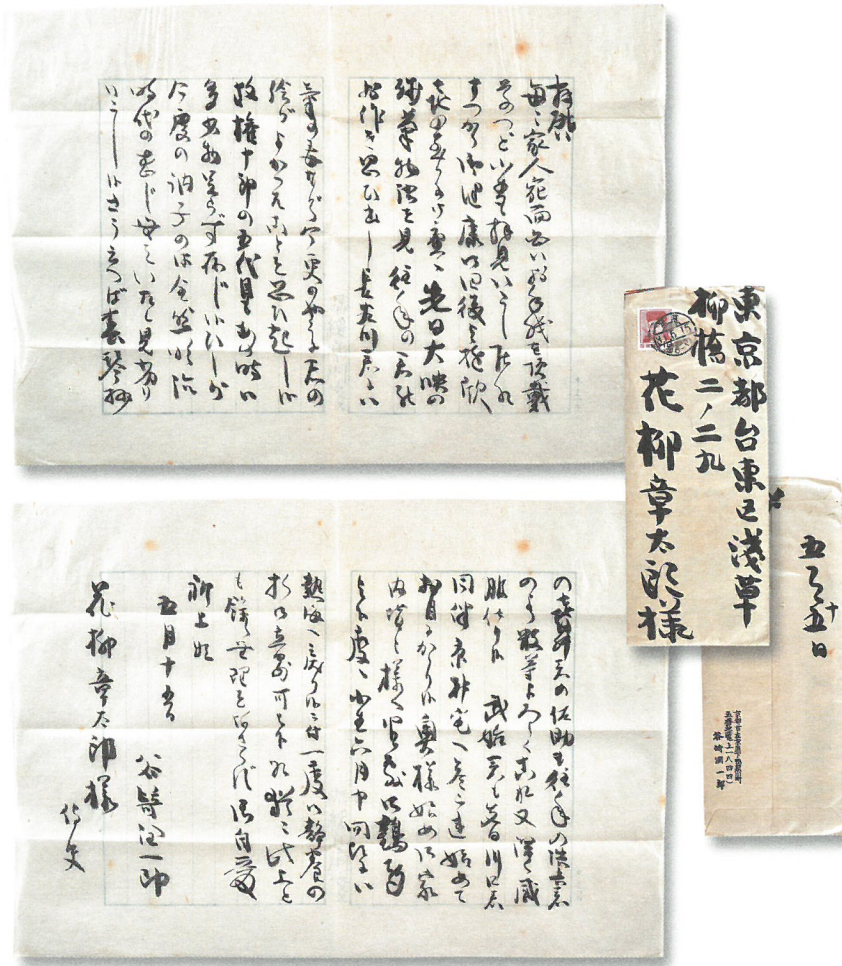
明治40年（1907）5月撮影  
文京ふるさと歴史館蔵

谷崎は後列右端、  
前列中央は新渡戸稲造。

## 谷崎潤一郎より花柳章太郎宛書簡

昭和31年（1956）5月15日付 文京ふるさと歴史館蔵

新派俳優・花柳章太郎に宛てた手紙。映画「残菊物語」（島耕二監督、長谷川一夫主演）を見た率直な感想や、花柳の二人の息子についての言及がある。花柳は谷崎原作『細雪』『瘋癲老人日記』などの芝居に多数出演しており、親しい間柄であった。



花柳章太郎様  
待史

五月十五日  
谷崎潤一郎

拝啓  
毎々家人宛面白くお手紙を頂戴  
そのつと小生も拝見いたし居候  
すつかり御健康御回復被遊欣  
喜の至りに御座候。先日大映の  
残菊物語を見 往年の君の  
お作を思ひ出し長谷川君には  
気の毒ながら今更のやうに君の  
絵がよかつたことを思ひ起し候  
故種二郎の五代目もあの時は  
多少物足らず存じ候ひしが  
今度の訥子のは全然明治  
時代の感じ無之いたく見劣り  
いたし候 さう云へば春琴抄  
の喜昇君の佐助も往年の浩吉君  
のより数等よろしくこれ又深く感  
服仕り候 武始君も先日川口君  
同伴京都宅へ参られ始めて  
お目にかかり候 奥様始め御家  
内皆々様へ宜敷御鶴声  
被下度候 小生六月中旬頃には  
熱海へ戻り候に付一度御静養の  
折御立寄可被下候 猶々此上と  
も餘り無理をなさらず御自愛  
祈上候

参考文献 「谷崎潤一郎展 一絢爛たる物語世界」 県立神奈川近代文学館 2015  
「文藝別冊 谷崎潤一郎」 河出書房新社 2015  
「谷崎潤一郎全集」 中央公論新社 2015 ほか

生誕130年・没後70年

## 木下杢太郎

[きのした・もくたろう]  
(1885～1945)  
医学博士・詩人・劇作家・小説家



伊東市立木下杢太郎記念館提供

没後80年

## 寺田寅彦

[てらだ・とらひこ]  
(1878～1935)  
物理学者・随筆家



高知県立文学館提供

没後60年

## 坂口安吾

[さかぐち・あんご]  
(1906～1955)  
小説家



新潟市文化政策課提供

本名・太田正雄。静岡県賀茂郡湯川村（現・伊東市）生まれ。独逸学協会学校（現・独協中学・高等学校）、第一高等学校、東京帝国大学医科大学卒業。新詩社の活動を経て、石井柏亭らと「パンの会」設立。『スバル』創刊に参画、森鷗外に認められ、観潮楼歌会にも出席。皮膚科医として東北帝大、東京帝大教授などを歴任。代表作に『和泉屋染物店』など。本郷区駒込西片町（現・西片）、小石川区白山御殿町（現・白山4）などに居住。

■伊東市立木下杢太郎記念館  
静岡県伊東市湯川2-11-5 TEL 0557-36-7454

麹町区麹町平河町（現・千代田区）生まれ。第五高等学校（熊本）で夏目漱石に学ぶ。東京帝国大学理科大学物理学科を卒業し、東京帝国大学航空研究所、理化学研究所、東京帝国大学地震研究所などの所員をつとめる。漱石の紹介で正岡子規を知り、『ホトギス』に藪柑子の名で随筆を発表。本郷区駒込西片町（現・西片2）、小石川区小石川原町（現・白山5）、本郷区向ヶ岡弥生町（現・弥生2）、同区駒込曙町（現・本駒込2）などに居住。

■寺田寅彦記念室  
高知県高知市丸ノ内1-1-20  
TEL 088-822-0231 高知県立文学館内  
■寺田寅彦記念館  
高知県高知市小津町4-5 TEL 088-873-0564

本名・柄五。新潟市大畑町生まれ。豊山中学校（現・日本大学豊山中学・高等学校）、東洋大学印度哲学科卒業。昭和11年、同13年頃、本郷・菊富士ホテルの「塔の部屋」に滞在した。戦後は太宰治、織田作之助らと並んで無頼派の代表と目された。代表作に『日本文化私観』『墮落論』『白痴』など。

■安吾 風の館  
新潟県新潟市中央区西大畑町5927-9  
TEL 025-222-3062

